

# 景観フォーラム

## 巻頭言

都市景観と政治とはどのような関係があるのか。例えば、建築美を絶賛したヒットラーが率いたナチズムの作った都市景観はどうであったか。自由資本主義の活動の中心地となっているニューヨークのマンハッタンの景観はどうか。ロンドン・パリ・そしてベルリンの都市景観と政治との関係はどうか。最近つとにミサイルを発射する北朝鮮の首都平壤の景観をどのように感ずるか。また、GDP世界第2位を誇るようになった中国の北京と上海はいかに。そして、最近の右傾化していると言われる日本の東京の景観はどうであろうか。

政治を意識しながら景観を眺めて観るのも面白いかもしれない。しかし、それは先入観というもので、なんら意味のないことではないかというご意見もあるかもしれないが、都市景観は何らかの意図されて作られているものであるという考え方も一考に値するのではないか。都市景観は長い時間をかけて自然に？創造されたものであるかもしれないが、まさに都市景観こそは人間が、否人類が創った創造物であることには異論はあるまい。

私たちが景観と称するとき、基本的にはこの都市景観と人類が直接的に手を加えていない自然景観の二つに大別できる。とすると、私たち日本景観フォーラムが研究対象にするオブジェは、先ずはこの都市景観であり、それは間接的にも政治的なものと大いに関係するのではないだろうか。会員の皆様におかれましては、是非とも積極的なご参加の程をお願い申し上げます。

NPO法人日本景観フォーラム理事長 齊藤全彦

<日本景観フォーラム2017年度（平成29年度）年間スケジュール>

\* 2017年度とは2017年4月1日⇒2018年3月31日のことです。

2017年

4月25日（火）第1回理事会・総会 於JICA研究所

5月27日（水）景観まちあるき：台東区：浅草界限（担当：齊藤）景観ハンドブック持参#

7月19日（水）景観研究会\*：考案中 於JICA研究所

8月 夏休み（景観研究自由参加）or 一泊二日で遠方の町並み見学会など？

10月25日（水）第2回理事会 於JICA研究所

11月12日（土）景観まちあるき：考案中

12月20日（水）忘年会

2018年

1月17日（水）景観研究会：世界の自然保護の現状（考案中） 於JICA研究所

2月14日（水）2017年度：景観町づくり活動のまとめと来年度への提言 於未定

3月 春休み（運営委員会開催予定）

\* 景観研究会：このたび景観セミナーを景観研究会と名称を改め、広く一般に参加者を募ることより、会員の皆様の景観研究を主体にした10人程度の研究会にしようかと考えました。外部からの参加者も自由に参加は出来ますが、講演形式よりも講師を囲み自由に議論できる形態にしたいと思っております。

★景観イベントなど：11月の景観まちあるきは同じ台東区になりますが、谷中などを考えております。また、9月下旬あたりに景観研究会があればどうかと思っておりますが、景観まちあるき含め皆様のご意見を賜りたいと思っております。

# 景観ハンドブック：会報今月号のブックレビューに『美しい日本の町並み』をご紹介しました。文庫本で大変よくできておりますので、是非とも購入して景観まちあるきのハンドブックとしてください。

## フィンランド共和国の景観紹介（その3）

NPO法人日本景観フォーラム 理事

フィンランド健康福祉センター・FWBCフィンランドOy 東京事務所代表 石見茂夫

### 3. フィンランドの景観に調和した建築紹介（医療ケア施設）

前はコンサートホールや教会を紹介しましたが、今回は福祉先進国であるフィンランドの医療ケア施設をご紹介します。ほかの公共建築物と同様に自然を上手に取り込んだ景観と調和したデザインの建築物が多く見られます。

フィンランドのケアコンセプトの基幹である人間の尊厳重視、自立型ケア、継続性あるシームレスケアを踏まえたケア施設はすべて個室のプライベート空間と大きな吹き抜け等を持つ共有空間で構成されています。ここでは日本をはじめ多くの国の視察団がよく訪問しているフィンランドのメジャーなケア施設を中心に選定しました。

#### A. ウェルヘルミンナ ヘルシンキ市

首都ヘルシンキにあるこのケア施設は敷地中央にサービスハウスが配置されグループホームが隣接しています。高齢者賃貸住宅は隣の区画に独立してあるがエントランスは繋がっています。日常生活に支障のない



自立ができる高齢者は住宅を利用し、ケアが必要となった場合は隣接するサービスハウスでケアサービスを受けることができます。施設規模はサービスハウス66名、高齢者住宅37戸、グループホームはショートステイを含め70名です。



#### B. カスタンカルタノ ヘルシンキ市

ヘルシンキ市の郊外にあるこのケア施設は敷地内に8棟の建物を有し615名の高齢者が入居しています。敷地は樹木に囲まれた自然の多い空間で建築外部空間にはパーゴラやバーベキューグリル、ベンチ等が設置されています。入居者の状態により入居棟が分かれており、精神疾患、身体機能障害等の専用棟が用意されています。歴史は古く当初の建築は1922年に新築され1996年に大規模な改修工事が行われました。入居者の平均年齢は83歳、男女比率は男性2：女性8で、大半は単身で入居していて夫婦は数組のみとなっています。



精神疾患、身体機能障害等の専用棟が用意されています。歴史は古く当初の建築は1922年に新築され1996年に大規模な改修工事が行われました。入居者の平均年齢は83歳、男女比率は男性2：女性8で、大半は単身で入居していて夫婦は数組のみとなっています。





### C. ウェルフェアセンター・オンニ ウーシーマ県ブッキラ村

ヘルシンキ市の東約100Kmにあるブッキラ村は周囲を農地と林地に囲まれた静かな農村地域にあります。このケアセンターは2008年に高齢者施設を中心にスーパーマーケット、診療所、薬局、プール、体育館、集会室、公園等地域のすべての年齢の住民が利用できる施設として完成しました。



外部にはテラスや坪庭（日本人が作庭した日本庭園）、また園芸療法のプランターや芝生の広場等があり、花だけでなく野菜や果樹の栽培もおこなっています。

ランドスケープ景観を重視したグループホームの建物は2ユニットあり居室はベッドに寝ていても外部の庭園が見られるように腰壁の高さが40cm~60cmと低く造られています。



### D. オネランポルク・シニアホーム ラハティ市

ヘルシンキの北100Km程にあるラハティ市はワールドカップのジャンプ競技で有名な人口約12万人の都市です。

フィンランドでは珍しい230室（家族）を有する大規模な施設で入居者は女性20%、男性80%の比率となっています。

1階は誰でも利用することが可能なロビーや食堂の他に、集会室、美容室、歯科診療所、ティラピストルーム、アクティビティールーム、企画スタッフルーム等の共有部として使用、2階3階は認知症フロアー、4階~8階が自立した高齢者向け住宅として使われています。外部にはリハビリ用遊具も設置されます。



省エネルギーに取り組んだ設計で太陽光発電用のソーラーパネルを屋上に設置している。照明は暖色のオレンジ色を基調としたものを採用しています。

認知症フロアーは100人収容24時間体制でケアが行われ外部へは自由に行くことができないように管理されていて、徘徊対策として共用廊下を八の字に形成し極力行き止まり廊下を無くしています。



## 絵にしたい風景、景観

NPO法人日本景観フォーラム  
豊村泰彦

最近水彩画をはじめた。水彩画は初めてである。これまで、デッサンやパステル、色鉛筆画などは経験ある。やってみて、水彩画は性にあっていると感じた。身の周りが汚くならない。水で流せる。清潔感がある。その点で油彩とは違う。絵は気晴らしの一つではあるが、描くときは常に良い絵を描こうというよりは面白い絵を描きたいと思っている。

描く対象は風景が一番多い。写真を基に描くのだが、外国や日本のいい風景である。まだ、初心者同然で絵について語ることはできないが、絵の初歩として風景画でも静物画でも絵を描く場合、風景の中にある「情報」と「構造」がとても大事だと言うことが分かった。一部の抽象絵画を除いて、名画といわれる絵は一部の抽象絵画を除いて、この二つが重要であるようだ。ゴッホの絵を例に挙げると、「ひまわり」にしても「夜のカフェテラス」にしても、というそれぞれの特徴を表す情報が画面に明快に表されているだけでなく、その構造が見る側によく分かる。細密に描こうが荒いタッチで描こうが、抽象化しようがそこは変わらない。要は見る側が自分でイメージを再構成するのだから、それが伝わるメッセージがちゃんと書き込まれていることが重要だ。

これは景観を見る視点にも通じるのかなと思った。景観が良いか悪いかという判断の前に、やはり、情報を正しく読みとる、構造はどうなっているのか、それを見る側がしっかり認識しないで、景観を語ることも判断することも出来ないと思うからだ。日本をはじめ東洋の街は看板だらけでしかも道が狭くごちゃごちゃしているところが多い。東京の下町はその典型なのだろう。例えば浅草みたいなところ。これが良い景観か悪い景観かを断定するのは難しい。街路の両側にひしめき合う店舗、法則性のない家屋の形状。看板の乱立。過剰な物と人。しかし、これらはその街の一つの「要素」であり、「情報」である。日本らしさ、東洋らしさを表す「情報」であるとともにその街独自の「構造」である。人が触れあうくらいの密集感は単に人が多いというだけでなく、路地の「構造」からくるのかもしれない。それらを人は頭の中で再構成して、「～らしさ」を認識する。「景観的に見る」とはそういうことではないだろうか。それが絵を描き始めてから何となく感じていることである。だから、良い景観や悪い景観という前に「情報」がいっぱい詰まった景観や複雑な「構造」を持った景観に惹かれるのである。それらは私の最も絵にしたい景観でもあるのだ。





## 国際西洋美術館の景観から学ぶ空間寸法

NPO法人日本景観フォーラム  
山崎晃弘

2016年7月17日、ル・コルビュジエが日本に残した唯一の建築作品である国立西洋美術館が、6月28日からのイスタンブール・アタテュルク空港でのテロ事件の最中、第40回世界遺産委員会で「ル・コルビュジエの建築作品—近現代建築運動への顕著な貢献—」のひとつとして認定された。

当時、委員会にはロビー活動の山名善之氏(東京理科大学理工学部教授)もあり、大変な後日談も聞かされた。それはさておき、上野の森に佇む国立西洋美術館について少々の経緯と景観ふさわしく凛として立つ点を解説したい――

ル・コルビュジエは言うまでもなく、フランク・ロイド・ライト、ミース・ファン・デル・ローエとともに、近代建築の三大巨匠のひとりである。

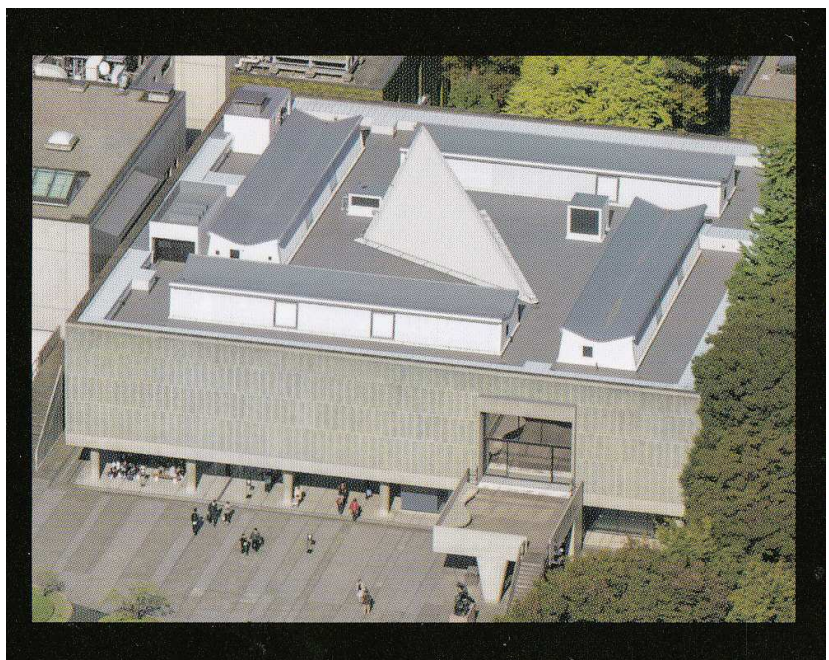
新しい建築の5つの要点(ピロティ、屋上庭園、自由な平面、水平連続窓、自由なファサード)を唱えるほか、その作品は「近代建築運動」という「顕著な普遍的価値」を有する思想と関連している。

それらは、国立西洋美術館において、平面計画、動線計画、空間構成などに渦巻き状に建築を拡張できる「無限成長美術館」(注)の思想とともに示される。

(注)建築的には、平面は渦巻貝から発想された黄金比による方形のらせん形状であり、特定の立面を持たない外観は四面すべて同じ立面をもち、施設的には、美術作品が増えても、必要に応じ外側へ増築して展示スペースを確保する美術館。

すべての建築には、その建築が必要となる目的があり、国立西洋美術館本館が建設に至るには、フランス政府から寄贈返還された、貴重な「松方コレクション」を展示する美術館設立という目的があった。本館別名を「フランス美術松方コレクション」という所以だ。

その建設準備には、1953年フランス美術館設置準備協議会が発足し、1955年には建設予定地に寛永寺凌雲院跡、建築設計者としてル・コルビュジエ(基本設計)、協力者として弟子である前川國男、坂倉準三、吉阪隆正(実施設計)が充てられた。



さて、国立西洋美術館は、ル・コルビュジエが1929年に計画したムンダネウムの世界博物館を発展させた、プロトタイプ「無限成長美術館」を基に計画しているが、配置計画において、本館の正方形を敷地全体の中に幾何学比例によって配し、この正方形を基準に全体の配置を構成したと考えられている。

ここで特筆すべきは、後に前川國男設計による東京文化会館大ホールを中心線と国立西洋美術館本館入口の軸線が一致している点である。

さらに、前庭に示されるその軸線は御影石の太線となり、同様の太線は敷地への西入口からロダンの地獄門の彫刻(現在は北側に移動)を結ぶ軸線にもみられる。これらは、国立西洋美術館の配置の比例を解く鍵と思われた。

すなわち、国立西洋美術館がもつ凛とした美しさは、一群の中の建物と広場など空間との配置割合が重要な要素を占める、ということを再認識した。

よって、都市景観を考えるにあたっては、この「空間比例配置」を意識した考察が必要と思われ、さらには、ル・コルビュジエが開発したモデュール(人体寸法と黄金比を重ねた独自のモジュール)を外部空間へ発展させ、新たな空間寸法の体系化を望みたい。

以上

## &lt;CINEMAレビュー&gt;②

## 『人類遺産』

先般、大変変な映画を観てきました。内容は、廃墟の映像のみで、音声はその場所から発するもののみで、音楽というものはなく、その廃墟の映像が一か所ほぼ1分ぐらい流される。視聴者はそれをどう見るか。唯見ながら考える。映画館にいる人にはそれが耐えられず出てゆく者も若干いたようです。映画の題名は『人類遺産』と称しておりますが、原題は”HOMO SAPIENS”で、これはラテン語で”wise man”即ち“賢い人”ということになり、何はともあれ、自画自賛のたまものです。映画はその賢い人が残したという人類にとって不必要になったもの一覧として表現されているということになります。賢い人はこんな残骸を残すのだ。何が賢いのだ、と映画は問い掛けているようです。これもある種の景観を眺めているのかと自問しながら、それを観る自分とは何かと問われる映画でした。この映画のパンフレットに簡単に内容を紹介してありますので、掲載いたします。(小淵 潤)

放置され、朽ち行く人口建造物の風景からは、人々が去った後もなお、不思議な息吹が感じられる。“彼ら”が私たちに伝えようとしているメッセージとは何か？いま、時空を超えた“人類遺産”との対話が始まるー

記録的なロングランヒットとなった『いのちの食べかた』（2007）で一切のナレーション・音楽を排し「食糧」の生産現場を見せ、『眠れぬ夜の仕事図鑑』（2012）では世界の「夜に活動する人々」に焦点を当て、美しい映像のなかにも痛烈な社会批判や現代社会に警鐘を鳴らすメッセージが込められた作品を撮り続けるゲイハルター監督。彼がこの最新作で切り撮るのは、かつての人間の手によって作られ利用され、やがて人間の都合で放置され、朽ち行く世界の“廃墟”だ。

これまで道り何の説明もいらない圧倒的な映像美のなか、本作ではついに人物すら登場しない究極の世界観を創り上げている。約30年前の大雨で湖底に水没し、近年の干ばつによって奇跡的にその全貌を現したヴィエラ・エベクエン（アルゼンチン）の町並み、アメリカ・ニュージャージー州の海上遊園地を襲ったハリケーンにより、海へと崩落した巨大なジェットコースター。そして、日本の高度成長期を支え、最盛期には5000人以上が生活していた炭鉱の島・端島（軍艦島）の鉄骨アパートの部屋では、時を止めたカレンダーが風に揺れているー。

誰もいない廃墟の風景に、まるでその場にいるかのような臨場感と不思議な生命力さえも感じさせられる。

私たちが見ている光景は過去の産物なのか？それともこれが未来の世界なのか？そもそも人類がこの地球に存在する意味とは何なのか？“棄てられた風景”が、今静かに語りかけてくるー。

政策・監督・撮影：ニコラス・ゲイハルター  
2016年オーストリア・ドイツ・スイス 94分  
原題：HOMO SAPIENS

[http://jinruisan.espace-sarou.com/info/?page\\_id=8](http://jinruisan.espace-sarou.com/info/?page_id=8)





## &lt;LFJブックレビュー51&gt;

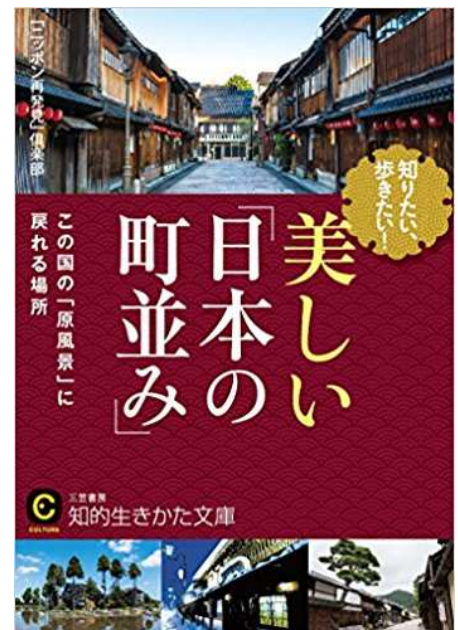
『美しい「日本の町並み」』 「ニッポン再発見」倶楽部著 三笠書房知的生きかた文庫 2017年刊

本書は本年3月10日に発刊された知的生きかた文庫の一冊である。この文庫はサラリーマン対象に日日は好日をテーマに色々な知的生きかたを提示している人気ある文庫群である。その文庫の中に「まちあるき」の分野が出たということは、まさに私たち団体がやってきた「景観まちあるき」そのものがある程度の年齢の方々に趣味として生き渡りつつあるということではないか。著者は『近代化遺産と「すごい」日本人』など日本の色々な分野について書いている団体で、日本を元気にすることを目指して、様々な分野の情報を発信している。日本の町並みが、彼らの興味の対象となるのは当然である。

内容は写真が大変豊富で330ページ余りの中々良くできたものとなっている。まず、「港町」の町並みとして有名な函館、長崎、神戸、レトロな門司、江戸時代を感じさせる鞆の浦など13か所をあげている。次に、日本の町並みの代表的なものとして「宿場町」の町並みとして、大内宿、馬籠・妻籠宿、長浜など12か所を提示している。「商家町」は川越など10か所、「城下町」は角館など11か所、「門前町」として成田など7か所、「茶屋町・温泉町」では先斗町・道後温泉など10か所、「集落」の村並みとして白川村など8か所、「産業町」の町並みとして深谷、内子など8か所、そして最後に町並みの基本が解るとして、8分野のそれぞれ簡単な特徴を示している。以上、日本の町並みを8分野に分け、具体的に79か所の“まちあるき”の対象を提示している実に簡便でわかりやすいハンドブックとなっている。

さて、この手の書籍は、亀井千歩子編『懐かしい日本の町をたずねて 関東小さな町小さな旅』（2001年1月刊）、主婦の友社編『日本の歴史的風土100選』（2010年10月10日刊）、伝統的町並み研究会編『一度は歩きたい日本の町並み』（2015年10月5日刊）、など等色々刊行されているが、書籍も大きく何れも網羅的であり、観光として景観を茫漠と楽しむということが主であり、日本景観フォーラムがハンドブックとして使用するには若干不適切であるのは否めない。そこで、このたび「ニッポン再発見」倶楽部が発刊したこの『美しい「日本の町並み」』は、そこに住居する過去および現在の人々の営みに視点を合わせ、景観がどのように出来上がったのかという問いかけが投げかけられる。そのような視点で活動する“まちあるき”こそ、まさに日本景観フォーラムの「景観まちあるき」ではないかと思ひ、ご紹介する次第である。この点に関して、会員の皆様と喧々諤々の議論をし、より良い「景観まちあるき」を創造していきたいと思ひますがいかがでしょうか。

今回、そういう思いを込めて、会員の皆さんには、このハンドブックを是非とも景観まちあるきの選定準備に、また景観まちあるきの実践後の議論の基本になるよう熟読されかつ携帯して頂きたい。720円+税です。（斉藤全彦）





## 天地玄黄 ⑬「観光地における景観」

先日、ワイキキとカイルアの街に観光に行ったので、その時の景観の違いを考察してみようと思う。

ワイキキは、空港からほど近くおそらくハワイを目的とした観光客のほとんどが泊まるであろう観光都市である。大型ショッピングモール、免税店、コンビニとなんでも揃うお店がいくつもあった。店内に入ると在来韓国人だろうか、アジア系の人が多くみられた。ショッピングも含めにぎやかで活気があるリゾート地と感じた。



一方カイルアは、ホノルルの北東部に位置する地区でワイキキからバスで50分、レンタカーで30~40分程度と、都会からほど遠くにある。ショッピングモールは、1~2件ほどで用途も日用品や食品といった生活用品となっており、その街の生活感がなんとなく伝わってきた。また、小さな雑貨屋や古本屋などこの街に住む人が経営していると思われるお店が点在していた。都会とはまた違い、静かでゆったりとした雰囲気のある観光地であると思った。

この2つの街を比べ思ったことがある。

「景観」と言われるその街のイメージや雰囲気は、いかにして固定化されるのか。

観光客からしてみると、今まで見たことのない景色や街並みの全てがこの街の景観であり、以前からこうなのだと感じてしまう。

しかし、実際は怎なのだろう。

今ではなく、過去はどんな状態だったのだろう。



都会の観光地は、発展する過程で住人の一部が街から離れることを余儀なくされ、都市開発は着々と進められる。その街の景観は、政府や企業によって再構築される。改編まではいかなくとも手がくわ得られることは確かだ。事実ワイキキ本来の景観は、こんなに立派なホテルが立ち並ぶのではなく水田だったという。高い建物やホテルは後々に作られたものだ。昔はもっと静かで、カイルアのような生活感あふれる街だったかもしれない。

景観とは、昔から存在するその土地の風土や習慣、その街の住人によって形成されるものなのか。都市開発によって真新しい都市として生まれ変わり、移民や在米する人々によって形成されるものなのか。時代の流れによって強制的に景観を決定されてしまうものなのか。

日本はまさに3年後のオリンピックに向け開発が行われている。その過程で今の景観は壊され、再構築されている。もともとを生かして景観を作りあげるか、元を重要とせず景観を作り上げるのか。どちらが良い、悪いというわけではない。ただ、消える景観と生まれる景観があるということがあるのを認識してほしい。

消えた景観を知っている人と、今の景観しか知らない人。その街の人や建物をいかに違和感なく維持・開発し、その後の風景を当たり前とし見ている人とそこに住む人の心を満たすことができれば、どんな景観であろうとその人の頭には、この場所はこの景観なのだと思固定化されていくのだと思った。



Yuki

〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町14-5-502

TEL : 03(3780)3814

FAX : 03(6379)6681

E-mail : [info@keikan-forum.com](mailto:info@keikan-forum.com)

URL : <http://www.keikan-forum.org>



Landscape Forum of Japan